

福岡県両筑平野における営農類型調査結果

上原 三郎・和田 武利

(福岡県農業試験場)

両筑平野は福岡県の中央よりやや、南に位置し、筑後川の北側に広がる地域であり、耕地面積 6449ha のうち水田 4598ha、畑 1851ha (うち既に 1000ha 余は地下水利用による陸田化つまり如灌田化が行われている) を有し、畑地率が約30%を占める福岡県唯一の畑作地帯である。畑地は火山灰を含む土壌からなり台地を形成し、生産力はあまり高くない、河川は小石原川と佐田川が流れているが水量は乏しく、水稻生産力も低い、そのため佐田川の上流にダムを建設する計画があり、ダム建設後の営農計画をたてるため、現状の営農計画をたてるため、現状の営農実態を明らかにする目的をもって本調査を実施した。この報告は主として所得計算の分析について報告し、所得の要因について技術的問題の検討については後の機会にゆずることにした。

Ⅰ 調査農家の選出母集団について：両筑平野で行われている営農類型は第1表のとおりである。

大数調査の抽出調査にあたって、どのような方法で母集団の層化を行い、各層から何戸抽出するかはその調査結果に重大な関係をもつ。本調査では全農家を一

第1表 普及及所別営農類型別総戸数並びに調査戸数

普及 及所別	類型別	総戸数						
		総戸数	普通作	そさい	果樹	酪農	養豚	養鶏
甘 木	A	2,404 (100.0)	1,909 (79.4)	166 (6.9)	41 (1.8)	167 (6.9)	90 (3.7)	31 (1.3)
	B	92 (100.0)	18 (19.6)	20 (21.7)	13 (14.1)	19 (20.7)	13 (14.1)	9 (9.8)
朝 倉 西 部	A	1,639 (100.0)	1,083 (66.1)	49 (3.0)	79 (4.8)	87 (5.3)	291 (17.8)	50 (3.0)
	B	75 (100.0)	19 (25.3)	10 (13.3)	8 (10.7)	13 (17.3)	17 (22.7)	8 (10.7)
朝 倉 東 部	A	486 (100.0)	330 (67.9)	20 (4.1)		7 (1.4)	51 (10.5)	78 (16.1)
	B	15 (100.0)	4 (26.7)	4 (26.7)		3 (20.0)	2 (13.3)	2 (13.3)
三 井 北 部	A	1,663 (100.0)	776 (46.6)	57 (3.4)		73 (4.4)	142 (8.5)	15 (0.9)
	B	79 (100.0)	19 (24.0)	16 (20.3)		24 (30.4)	16 (20.3)	4 (5.0)
計	A	5,592 (100.0)	4,098 (73.3)	292 (5.2)	120 (2.1)	334 (6.0)	574 (10.3)	174 (3.1)
	B	261 (100.0)	60 (23.0)	50 (19.2)	21 (8.0)	59 (22.6)	48 (18.4)	23 (8.8)

註. Aは総戸数, Bは調査戸数 ()内は割合

定の規準のもとに6類型に分類し、混合型態は設けなかつた(現実にはさまざまな混合形態が存在するが)、調査農家の配分は成長部門に重点をおいたため畜産経営が49.8%を占め普通作経営は23%となつた。従つて母集団農家からの調査農家の抽出率も普通作は極めて低く、畜産、園芸類型は高く15~20%となつた。そして農家の選定に当つては経営規模を考慮したとはいえ、選定された農家はやや上位階層に偏した結果となつたようである。

Ⅱ 営業類型別 階層別農業所得の比較：今回行つた調査は 261戸であるがその結果は第2表のとおりである。

各類型について階層間を比較すると、粗収入、経営費、所得とも階層が大きくなるに従つて増加している。耕地10a 当りについて所得をみても大規模経営は有利になつている、中規模経営は小規模経営よりも反つつ低い類型があり今後階層分化が進む過程において問題が残るようである。

投下資本額は類型により差があるが、耕種経営は比較的少なく、畜産経営は多くの資本を要している。

Ⅲ 同一規模における営農類型別比較：耕地面積をほぼ同一にした場合夫々の類型がどのような成果をあげうるかをみたのが第3表である。農業所得をみると最も多いのは果樹であり、次に酪農、そさい、養鶏、普通作、養豚である。

農業資本利子部分を差引いた家族労働報酬をみると果樹、酪農が最も多く、そさい、普通作、養豚、養鶏の順となる。また家族農業労働1日 500円として資本純収益を出す果樹、そさい、酪農、普通作、養豚、養鶏となり、このうち養豚、養鶏は赤字になり、企業的には昭和36年度は採算に合なかつた。

Ⅳ 酪農部門概算所得計算：酪農経営は比較的有利であるが酪農経営の中で主要部門を占める酪農部門について階層別に比較すると第4表のとおりである。

飼養規模が大きくなるに従つて所得指標も技術指標も有利になつている、特に所得について1頭当りをみると7頭以上階層は急に高まつている。このことは少

数飼育から多数飼育に移行する場合5～6頭の段階で のような仮設が許されるならば更に立入った要因分析
技術体系の著しい変化があるためではあるまいか、こ によつて実証することが今後の課題である。

第2表 営農類型別階層別農業所得比較

項目	類型名	階層別	普通作(旧水田)				普通作(陸田・畑)				そ ぎ い			
			～150	150～	200	200～	～150	150～	200	200～	～9万円	10～19	20～29	30～
			アール	アール	アール	アール	アール	アール	アール	アール	アール	アール	アール	アール
調査農家 同族平均 粗収入 農業従事者 農業労働者 耕地10ア 農業経営者 土農家 農業家族 (1日500円と)	戸数	7	6	5	17	11	14	12	21	6	11			
	人口	2.1	2.0	2.5	2.0	2.4	2.4	2.2	2.1	2.6	2.4			
	労働力	627	564	742	574	616	700	627	620	754	758			
	面積	128	179	225	125	169	257	146	160	165	156			
	収入	466	579	858	389	491	830	517	614	720	796			
	経費	47	35	73	46	65	57	38	38	75	45			
	所得	513	615	932	435	556	887	555	652	795	841			
	所得	210	249	261	179	253	379	255	254	273	317			
	所得	303	366	671	256	303	508	300	398	522	524			
	所得	144	188	268	128	126	212	136	190	201	218			
	所得	483	649	904	446	492	726	478	642	692	691			
	所得	24	20	30	20	18	20	21	25	32	34			
	所得	313	501	324	272	229	577	351	434	583	302			
	所得	66	163	157	52	132	185	126	101	114	158			
	所得	87	118	116	70	82	97	78	78	90	76			
所得	86	93	101	74	102	155	102	106	111	127				
所得	552	875	704	499	546	1,027	660	723	898	683				
所得	1,716	2,507	3,123	1,326	1,655	2,850	1,884	1,805	1,664	1,685				
所得	2,268	3,382	3,826	1,825	2,202	3,876	2,544	2,528	2,562	2,367				
所得	113	169	191	91	110	193	127	126	128	118				
所得	190	197	480	165	193	315	173	272	394	406				
所得	△ 10	84	300	△ 31	△ 5	158	△ 14	88	145	145				

項目	類型名	階層別	果 樹			酪 農				養 豚			養 鶏		
			～29	30～59	60～	～2.9	3～4.9	5～6.9	7～	～4.9	5～9.9	10～	～99羽	100～299	300～
			アール	アール	アール	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭	頭
調査農家 同族平均 粗収入 農業従事者 農業労働者 耕地10ア 農業経営者 土農家 農業家族 (1日500円と)	戸数	3	10	8	15	27	12	5	34	12	2	5	10	8	
	人口	1.8	2.3	2.5	2.4	2.5	2.8	3.0	2.2	2.2	2.4	1.9	2.0	2.2	
	労働力	517	714	785	663	748	865	900	625	632	705	577	622	696	
	面積	123	155	167	154	150	206	238	164	159	173	119	116	106	
	収入	502	624	928	454	420	502	572	470	540	585	368	416	363	
	経費	36	52	53	281	489	725	1,478	107	246	782	151	428	2,017	
	所得	538	676	981	735	908	1,227	2,050	577	786	1,367	519	844	2,380	
	所得	157	262	424	416	511	730	1,111	256	414	741	330	478	1,888	
	所得	381	414	557	319	397	497	939	321	372	626	189	366	492	
	所得	212	180	223	133	159	178	313	146	169	261	99	183	224	
	所得	737	580	710	481	531	575	1,043	514	589	888	328	588	707	
	所得	31	27	33	21	26	24	39	20	23	36	16	32	46	
	所得	246	388	543	359	431	523	639	370	379	1,279	514	502	625	
	所得	46	136	94	138	162	148	292	97	132	159	87	121	61	
	所得	44	111	76	391	497	792	1,258	131	190	325	73	108	254	
所得	109	150	298	10	1	38	1	19	19	52	6				
所得	66	95	181	158	190	281	426	104	166	317	142	207	915		
所得	511	880	1,192	1,046	1,290	1,745	2,653	703	886	2,080	868	944	1,855		
所得	1,483	1,850	1,791	1,752	1,753	1,942	1,990	1,907	1,776	2,384	1,030	1,531	1,099		
所得	1,994	2,731	2,983	2,798	3,043	3,686	4,642	2,609	2,662	4,463	1,898	2,474	2,954		
所得	100	137	149	140	152	184	232	130	133	223	95	124	148		
所得	281	277	408	179	245	313	707	126	281	518	94	242	344		
所得	123	57	165	△ 13	23	65	489	△ 57	98	389	△ 100	55	144		

註：(1) 普通作類型(旧水田)は水田面積70%以上の農家、普通作(陸田、畑)は水田70%以下の農家である。
 (2) 建物、施設、大植物の評価は昭和36年度農林省農畜産業用固定資産評価標準によつた。
 (3) 大農具、家畜の評価は時価農民評価によつた、土地評価は統計調査事務所資料による、流動費は経営費－(借入資本利子+償却費)の2分の1とした。
 (4) 農業資本利子率は一率5%とした、(5) 農業資本純収益の算出は家族労働1日当500円として計算した。

第3表 耕地規模がほぼ等しい農家群の畜農類型別、経営成果の比較

項目	類型名	普通作	そさい	果 樹	酪 農	養 豚	養 鶏
調査農家数	戸	17	17	12	22	12	3
家族農業労働力	人	2.2	2.2	2.5	2.6	2.4	3.1
同上従事日数	日	598	669	775	778	672	1,043
平均耕地面積	アール	173	174	168	170	170	179
粗収入	耕種収入	522	664	822	484	473	627
	畜産収入	55	45	65	556	140	1,373
農業経営費	経費	577	709	887	1,041	613	2,000
	所得	238	286	390	566	290	1,630
農業従事者1人当り	千円	339	423	497	475	323	370
家族労働1人当り	千円	154	192	199	183	135	119
	千円	567	632	641	611	481	355
耕地10アール当り	千円	20	24	29	28	18	21
	千円	306	461	493	503	360	725
農業経営資本	建物施設	128	140	133	167	115	76
	大家畜	86	85	99	577	158	217
資 本	大流	1	12	191	1		10
	植動費	95	113	146	216	116	780
土地資本	計	616	811	1,062	1,464	749	1,808
	千円	1,934	1,973	1,893	2,031	2,056	2,149
農業総資本	千円	2,550	2,784	2,955	3,495	2,805	3,957
農業資本	千円	127	139	148	175	140	198
家族農業労働報酬	千円	212	284	349	300	183	172
農業資本純収益	千円	40	89	110	86	△ 16	△ 151

註 (1) 普通作類型を旧水田と陸田、畑の多い普通作とを合計して算出した以外は第2表の註に同じ。

(2) 各類型とも耕地面積150~200アールの農家をとって平均し、ほぼ170a前後の規模で比較した。

第4表 酪農部門概算所得（階層別比較）

項目	規模別	~2.9頭	3~4.9	5~6.9	7~
調査農家数	(戸)	14	26	11	5
平均乳牛飼養頭数	頭	2.1	3.9	5.9	8.9
収入	代	238	411	563	1,150
	牛販売額	17	33	45	101
増殖	増殖計	14	32	111	196
	購入飼料	269	475	719	1,447
支 出	飼料費	124	209	271	513
	畜管理費	28	36	59	85
所 得	建物費	3	6	6	15
	農具費	6	7	14	17
部 門	その他	39	59	81	124
	計	0	1	2	4
乳 牛	計	201	318	435	759
	所得	85	154	284	687
1 頭 当 り	飼料率	67.8	54.8	52.6	45.7
	飼料作面積	28	20	22	25
1 部 1 頭 当 り	飼料作面積	49	77	130	224
	労働時間	1,614	2,371	2,964	3,945
1 部 1 頭 当 り	労働時間	52	76	101	192
	粗収入	128	122	122	156
1 部 1 頭 当 り	経営費	96	82	74	82
	所得	32	40	48	74
1 部 1 頭 当 り	飼養時間	768	608	502	424
	搾乳量	4,943	3,795	4,173	4,770

- 註 1. 乳代は自家消費分も含む。
 2. 成牛の取引きは所得計算に計上せず。
 3. 増殖額は農民評価による。
 4. 建物、農具の償却費は直接酪農に使用するもののみを計上し、農舎、耕うん機等は計上せず。
 5. その他は主に飼料作物種子代であり、肥料費等経営費から分りにくいものは計上せず、そのため酪農部門の概算所得とした。